



● 中小経営再考する

浪速金液株式会社

代表取締役 林 雅史

安倍政権となり約1年7ヶ月が経ちました。アベノミクスの第一、第二の矢である金融財政政策が政府と日銀両面で実行されて景気を押し上げました。しかし景気が本当に我々中小企業全体に恩恵があったのかは一概には言えないと思います。けれどもこの景気感の好転をチャンスととらえ未来への成長の構造転換をしなければと考えます。

弊社は陶磁器・硝子用製品の上絵原料（金色・白金色・ラスター等）を生産しております。先日迄の円高・デフレにより大手取引先企業は生産拠点を海外に移し、中小企業は廃業・縮小などが多く起こりました。そこで9年前から技術指導により中国で生産したものは、中国で販売しております。そして生産品1本につきロイヤリティを受け取っています。しかし、尚一層のイノベーション・グローバル化をしなければなりません。

これからも日本のものづくりの未来を考えると大きな可能性を秘めているのはやはり地場産業であり、中小企業であると思います。そして尚一層の成長を求めるならばグローバル戦略を検討することが必要と思います。その為には、中小企業が独自性と柔軟性を発揮すれば成功の機会は大いにあると思います。又、機能面で一定水準を満たした製品やサービスに消費者の主観的な価値を載せて高く売る発想が必要です。中小企業にとって今や大量生産を合理化によるコストカットよりもその場に適した市場価値の向上が大切です。その為には情報網と市場管理が必要です。大量生産型の体制から多品種、少量の情報化への転換が又必要です。リスクを考えながら変

化に対応できる組織にすることが必要です。

次に以前にも増して企業の浮遊を左右するのが経営トップの力量です。経営構造の変化をしっかりと受け止める。顧客や仕入先、ステークホルダー（利害関係者）、地域社会に対してその姿勢を強める必要があります。現在は技術革新も全て自前では起せません。又、企業内に於いても会社の持っている哲学理念がしっかりしている事と製造するだけでなく社員に浸透させていく事が大切です。とにかく繰り返して伝えることです。

童門冬二先生はこれからは一人ひとりが破壊、創造、管理の能力を求められる時代となります。その上経営者に必要な要件は大きく六つあります。先見力・情報力・判断力・決断力・実行力・そして体力です。健康で、ある程度長生きしなければ、いくら能力があっても大きな仕事を成し遂げられません。これらを持ち合わせた上で「風度」を持つとなおいい。風度とは人柄などによって相手を引き込み「この人のためなら頑張ってみよう」と思われる力のことです。最後に6月にまとまるアベノミクスの第三の矢の成長戦略がどの様なものであるのか、それを考えなければなりません。

中小企業にとっては補助金制度を利用した設備投資、新製品開発を考える時、又技術アドバイスを受ける時、異業種交流を深める時には、公益財団法人名古屋産業振興公社の皆様が大変お世話になります。尚一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。